

令和6年度第1回一関市図書館協議会 会議録

- 1 会議名 令和6年度第1回一関市図書館協議会
- 2 開催日時 令和6年7月2日（火）午後2時から3時40分まで
- 3 開催場所 一関図書館 学習室
- 4 出席者
 - (1) 委員 山村淳委員、二階堂美恵委員（副会長）、都澤喜久子委員、
金安信委員、金里徹委員、菅原夏希委員、鈴木宏委員、
玉澤万里子委員、鈴木純香委員、佐々木香委員、菅原慶子委員、
吉瀬献策委員、岩本智美委員、那須照市委員（会長）、阿部利彦委員、
千葉哲夫委員
 - (2) 事務局 時枝直樹教育長、藤倉忠光一関図書館長、
八重樫裕之花泉図書館長、佐藤和子大東図書館長、
千葉浩千厩図書館長、佐藤鉄也東山図書館長、
千葉伸室根図書館長、菊地和哉川崎図書館長、
梁田潤藤沢図書館長、佐藤俊憲一関図書館副館長兼企画管理係長、
西村ミドリ一関図書館副館長兼資料サービス係長、
吉住優一関図書館主任主事
- 5 議題
 - (1) 一関市図書館協議会会長の互選について
 - (2) 一関市図書館協議会副会長の指名について
 - (3) 一関市教育委員会事務事業等の点検評価に係る外部評価委員の推薦について
 - (4) 令和5年度一関市立図書館事業報告について
 - (5) 一関市立図書館運営方針 令和6年度の具体的な取組について（諮問事項）
 - (6) その他
- 6 公開、非公開の別 公開
- 7 傍聴者 0名
- 8 挨拶
教育長

平素は、本市の教育行政並びに図書館運営に、格別の理解と支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

今ほど、辞令書を交付させていただいた委員の皆様には、協議会の委員として2年間、ご尽力いただくことになるので、よろしく願います。

さて、図書館協議会は、図書館法で「図書館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、図書館の行う図書館奉仕につき、館長に対して意見を述べる機関とする」とされている。一関市図書館協議会は、地域の実情を踏まえ、利用者および住民の皆様のご要望を十分に反映した図書館運営に努めるため設置したものである。

図書館は、教育、特に社会教育の面でも重要な教育施設である。

一関市教育委員会の教育振興基本計画、これは10年間の教育の方向性を定めたものであるが、一貫して第一に挙げているのは「ことばの力を育てる」ということ。「ことばの力」に一番密接に結びつくのは読書、そして図書館であると考えている。この建物ができたときの初代名誉館長である及川和男さんが、一関市の図書館を「八ヶ岳」になぞらえていた。8つの図書館がそれぞれ個性を持ちながら、全体として一関の読書環境を高めていくという意味でそういう言葉を述べたことがあった。

とてもいい言葉だと思っていたが、その「八ヶ岳」が市民の皆さんから見て、市民の読書環境を高めていくという位置づけに今後もなっていけばいいのではないかと思っている。

また、^{イ フ ラ ユ ネ ス コ} IFLA-UNESCO公共図書館宣言2022では、「公共図書館は、地域社会を育むもので、積極的に新しい利用者にも手を差し伸べ、実効ある聞き取りによって、地域の要求を満たし生活の質の向上に貢献するサービス企画を支援する。人々の図書館への信頼に応え、地域社会への積極的な情報の提供と啓発が公共図書館の目指すところである。」と書かれている。

一関市立図書館でもこれを目指し、色々な事業を展開している。中でも、蔵書数は、百万冊を超え、全国の類似する自治体では、全国1位である。

人口減少が続く一関市にあっても、この良書100万冊が市民の身近なところで、手に取って読める読書環境の中で文化的生活を送れるような図書館環境が必要であり、市内の要所に8館と、移動図書館車により市内全域へ本を届け、読書普及をしていく活動を続けていくことを私たちは目指していきべきであろうと思っている。

本日は、今年3月26日に諮問した事項も含め議論いただき、いただいた御意見を元にしながら、良い運営に努めていきたいと思うので、活発なご意見をよろし

くお願いする。

9 審議内容

- (1) 一関市図書館協議会会長の互選について
互選の結果、那須照市委員が会長に選出された。
- (2) 一関市図書館協議会副会長の指名について
会長指名の結果、二階堂美恵委員が副会長に選出された。
- (3) 一関市教育委員会事務事業等の点検評価に係る外部評価委員の推薦について
図書館協議会委員の改選期により委員の推薦期限まで時間がなかったことから、事務局から金里徹委員に依頼したことを事務局から説明した。
- (4) 令和5年度一関市立図書館事業報告について
資料に基づき事務局から説明を行った。質疑応答等なし。
- (5) 一関市立図書館運営方針、令和6年度の具体的な取組
資料に基づき事務局から説明を行った。

委員 自分は民生委員をやっているのだが、前回の図書館協議会における意見の2ページ33番、高齢者対象のサロンを利用しての貸出しについては、来年度以降検討してみる余地があるのではないかと思った。

また、35番のサロンルームについてはお金がかかることなので難しいだろうが、高齢者にとってはうれしいことだと思う。

37番については、高齢者ではなく「人生の大先輩」に対し対応していく、という表現であれば相手方に抵抗は少ないのではないか。

事務局 一関と東山において「出張おはなし会」を実施している。読書指導員が高齢者の集まりにお伺いし、読み聞かせをしている。

移動図書館車の行くタイミングもご要望に応じ、来年の計画に入れさせていきたいと思う。

ちなみに、配布資料の102ページに東山の取組を記載しているので、参考までにご紹介する。

委員 意見1ページ19番について、自分も日本国有鉄道におり、このSLを運んできた後に採用になった人間で、これを昭和47年にここまで移動した時の苦労について先輩から聞いていた。

現在の館長になってからはSLに関し色々なイベントを企画されている。マスコミにも協力をもらい、SLのある図書館として、全国にイン

パクトが与えられればいいと思う。

事務局 昨年度までは日本国有鉄道の一関機関区OB会を中心に清掃活動をしていただいていたが、新型コロナウイルス感染症の影響で一時活動ができない期間があった。また、OB会のメンバーの高齢化により今後の活動が難しいとのご相談をいただき、昨年度から清掃活動について一般の方を募り、清掃イベントとして進めてきた。また、市の「元気な地域づくり事業」を活用し、冬期間にSLにイルミネーションを飾りご覧いただいた。

今年度もこれらのイベントは続けたいと考えている。また、OB会のメンバーの方に当時のお話をお伺いする講話も開催したいと考えている。

委員 意見1 ページ22番に障がいを持った子供たちの親とか、2 ページ37番、高齢者にやさしい図書館というのがあるが、障がいを持った方や高齢者の方のアンケート、図書館の満足度調査の実施、取りまとめについて何かお考えはあるか。

事務局 次期図書館振興計画を作る際にはアンケートが必要であることから、今年度実施に向けて準備している。計画は来年度中には作り上げ、令和8年度からのスタートに間に合わせたいと考えている。

障がいを持った方々には、市の健康こども部の協力により、図書館の使い方などを一緒に学習したり、バリアフリーの施設の点検をしていただいている。

委員 諮問事項の目標値について、どうしても前年度比で各地域の図書館の数値に目が行くが、一関市全体の市立図書館の目指す数値目標に対し、登録者数については、令和7年度を待たず既に達成しているようだ。

一方、市民1人当たりの年間貸出点数や、年間貸出点数総数については、どれくらい達成しているのか、分かれば教えていただくか、どこかに明記していただけると良い。

資料作成についてはお疲れさまだったと思う。また、各地域図書館運営協議会の会議録を見ると未開発の利用方法などにつながるヒントやアイデアが見つかったので、図書館スタッフの皆さんも大変だとは思いますが、ぜひ目を通していただきたい。

例えば、会議室を講座などで使うと利用者が増えるということは、会議室をもっと開放して使いやすくすればもっといいかもしれないとか、新規

登録者を見つけ出すことについて、学校や会社などの新任職員に忘れずに声をかけるとか、小さなことの積み重ねでもいいと思うが、そういうアイデアが会議録の中にまだまだたくさん入っていると思ったので、ぜひ目を通していただきたいと思った。

諮問事項に関しては、よろしく願います。移動図書館車全域化計画については大東地域から出した意見である。職員配置について内部調整をいただき感謝する。運営協議会長より、多岐にわたる日常業務なのであまり無理をしないように注意していただきたい旨お話があったのでお伝えする。

郷土資料の保存、保管について、担当するのは図書館なのか、博物館なのか、民俗資料館なのか不明だが、一度散逸してしまうとなくなってしまうものなので、市全体として、郷土資料の保管、保存について話し合う場があってほしいと願う。

事務局 目標については、資料130ページの数値目標のことだと思う。2番の年間貸出点数総数は、令和5年度末で70万2,857冊であり、この1.6倍から1.7倍の貸出冊数にならないと目標に到達しない。この冊数を登録者数で割った市民1人当たり年間貸出冊数も目標の12点まで行っていないところである。

正確な数値はこの会議が終わるまでに報告する。

次にご意見で、移動図書館車、特に基地館の一関・大東・東山の職員の負担が多くなる。この理由は移動図書館車に運ぶ本の準備、及び戻ってきた本の清掃、その後書架に戻す作業がある。当初は、この作業に基地館以外の図書館からも応援の職員を配置し、対応する予定であったし、予算の方については人員の予算要求を行っているが、令和6年度は確保が難しいところであった。

委員 いつも数値の説明を伺い暗い気持ちになることも多かったのですが、だいぶ良い線まで行っているのがあれば良いと思って伺った。

事務局 全館を通じた貸出数の合計の数値が、前年度同時期に比べ令和6年6月は上向きになっており、下がり基調だった数値が止まったような気がしている。

委員 まず学校代表としてお話しすると、学校において移動図書館、読書普及

員の配置は非常にありがたいことで、本校でいえば読書普及員は週2回学校に来られ、図書館に入り、子供たちへのサービスを提供している。それによって子供たちは一生懸命本を読んでいる。移動図書館でも本を借りる子供たちは多いと思うので、これは非常にありがたい。

意見というか感想であるが、まずそれぞれの地域の図書館が色々な工夫をして活動しているというところはやはり非常にいいと感じる。どの図書館も競争してやっているのかというくらい、色々なことを実施しているが、基本はやはりどの地域でもある程度同じようなサービスを受けられるというのが最低限の条件だと思うので、その点についてはかなり、一関市は実施していると私は思っている。

自分は花泉地域在住で、以前、花泉に図書館がない時には、福祉センターに小さな図書館があったが、そこに行くよりは川崎に行った方がいいと思い川崎に行っていた。そういった意味でそれぞれの地域にあるというのは非常にいいと思っている。まず、どの地域でも最低限のところができているところはすごく良いと思う。

もう一つ、新聞を見ていて思うのは、それぞれの地域で色々なイベントを行っていると感じるのだが、それが事後にわかることで、もしそれがあらかじめ分かっていたら行ったと思う人も多くいるのではないかと思う。つまり、事業のPRの仕方、これがもう少しどうにかならないかという思いを持っている。

最後に、学校では今、子供たちが1人1台タブレットを持っているため、タブレットを持っている子供たちは、教室の中で本を探すということもできる。その際、子供たちが検索しやすいような、キッズ用のホームページ検索エンジンがあるといいと思う。今、正直なところ、一関市の図書館のホームページの検索は子供たちにとっては難しいと感じているので、ぜひこれを実現させてほしい。

事務局 先ほど委員から照会のあった、令和5年度末の市民一人当たり年間貸出点数は6.6点。年間貸出点数の総数は70万2,857点。個人貸出登録者数は6万4,152人で、人口に占める割合は60%である。

また、先ほど委員からお話をいただいた郷土資料の保存に関する連携についてであるが、以前に委員からお話をいただいたのが、保育園や幼稚園

の閉園に際し資料の保管をどこかで行えないか、という趣旨だった。地域の各支所もあるので、地域の支所で保管をお願いしていく。

委員 学校関連だけでなく、新たな家を建てるのに際し、古い家を取り壊すとき、図書館で集めていないような、色々な貴重な資料が出てくる。しかし持ち主の判断で無くなってしまふ、という話もある。年数が経つと無くなってしまふ。

事務局 図書館は私財から市で所有する公共財までを扱っている。公共財については図書館・博物館の連携があるが、私財の場合、持ち主からご相談があったら見に伺い、図書館でお預かりし所蔵するかどうかの判断を行うので、ご相談いただくしかないのではないかと考えている。

10 答 申

一関市図書館協議会長から一関図書館長に対し、令和5年度第2回一関地図書館協議会における諮問事項(令和6年度事業計画の策定)に対する答申があった。

その内容は、計画案は審議の結果妥当であると認め、下記の意見について検討し、計画の実施において活かすよう求めるものであった。

- 1 図書館行事の周知方法の工夫
- 2 すべての年代に見やすいホームページの作成

11 担当課 一関図書館